

稲における冠水ほ場での事後対応について

令和 8 年 8 月 1 8 日
千葉県長生農業事務所
JA長生営農販売部担い手支援課

令和 8 年 8 月 1 3 日から 1 4 日にかけて発生した「令和 8 年 8 月千葉豪雨」は、アメダス茂原において 2 日間で 252mm の大雨があり、一部水田では数日間冠水状態が続きました。

冠水ほ場での事後対策をまとめましたので、営農の参考にいただければ幸いです。

1 登熟期（8 月以降に出穂した稲）のほ場について

（1）冠水期間が 1 日以内の場合

- ・速やかに排水しましょう。また、いもち病等の病害虫の発生が懸念されるため、ほ場を十分に観察し、病害虫等の発生が見られたら防除しましょう。

（2）冠水期間が 2 日以上の場合

- ・数日間冠水した稲は、体内水分を消耗しやすくなっています。そのため、一度に水を落とさず、出来るだけ清水をかけ流しながら、徐々に水を浅くするようにしましょう。
- ・濁水が停滞している場合は、清水を流し、水の入替えを行いましょう。
- ・（1）で記載した病害虫の発生がみられたら速やかに防除しましょう。

＜いもち病に登録のある農薬例＞

薬剤名	使用時期	希釈倍数	使用量	使用回数	使用方法
ブラシン フロアブル	収穫 7 日前まで	1,000 倍	60～150L/10a	2 回以内	散布
		300 倍	25L/10a		散布【ブームスプレーヤー】
		8 倍	800mL/10a		無人航空機による散布

2 成熟期（収穫適期）前後のほ場について

- ・倒伏、冠水による穂発芽や着色米等による品質低下を防止するため、速やかに排水しましょう。
- ・倒伏した稲は、穂発芽等が懸念されるため、多少早めでも収穫に努めましょう。
- ・2 日以上冠水しているほ場の稲は、他のほ場の稲とは区別して、収穫、乾燥を行い、全体の品質を下げないようにしましょう。
- ・水田内に流入物がないか安全を確認してから収穫を開始しましょう。
- ・降雨直後に刈り取った稲や倒伏した稲の籾水分は高いので、速やかに乾燥機に張り込みましょう。また、倒伏した稲と倒伏していない稲が混在するなど籾水分のばらつきが大きい場合は、胴割粒発生防止のため、数時間、通風のみで乾燥してから火力乾燥を行いましょう。
- ・稲刈り後のほ場で、稲わらが吹き寄せられて一部分に堆積した場合は、可能な限り散らすか、ほ場外に持ち出してから耕うんしましょう。稲わらの分解を早めるため、腐熟促進剤等を利用し、耕うんは浅めに行いましょう。

問い合わせ先

○長生農業事務所改良普及課 作物担当 黒住、高内、河田

電話：0475-22-1771

○JA 長生営農販売部担い手支援課 担当 渡邊、関屋

電話：0475-24-5700